

講義年月日 2007年3月12日(月)

講演者 市古 みどり 氏 (慶應義塾大学信濃町メディアセンター事務長)

テーマ 慶應義塾大学における情報リテラシー教育:KITIE、日吉、資料検索法を中心に

講義内容

1. 日吉の学生に対する情報リテラシー教育の中で資料検索法という「KITIE」を利用した授業を行っている
 - ・レポート作成を全体的にサポートするチュートリアル「KITIE」
 - ・「情報を収集する」が中心となっている
 - ・米国大学図書館協会の高等教育のための情報リテラシー能力基準にのっとり
 - ・日吉の専門教育課程に進む前の学生に対して
2. 1996年「情報リテラシー委員会」発足後
 - ・教養研究センター設置の授業「アカデミックスキルズ」への参加
 - ・KITIE、PATHなどのチュートリアル作成
3. スタディスキルズ
 - ・問題(テーマ)の選択 関連する情報や資料の検索、収集 整理 レポート作成
4. 大学における教育方法の変化
 - ・ディベート形式
 - ・文献を読み、分析、討論し、発表する(プレゼンテーション)授業が増えてきた。
 - ・グループワーク
5. 情報環境の変化
 - ・インターネット普及で検索は図書館員から利用者へ
6. カリキュラムとの連携
 - ・教員との連携
 - ・担当者の育成
7. SFCにおける「資料研索法」の目標
 - ・大学における学習や研究において、必要な情報に適切かつ効率的にアクセスし、法的・倫理的に正しく入手し、それらを評価し取捨選択しながらかつようすることが出来るようになること。
8. リンクの要請
 - ・大学図書館ホームページ
 - ・高校教員
9. 情報リテラシー教育の展開
 - ・大学の教育の使命の中で、育てる道を追求しないと難しい
10. 日本における教育の変化
 - ・自己点検、自己評価
 - ・全入時代、学力、社会生活のスキル低下によるカリキュラムの変化
 - ・共通科目として可能ではないか
11. 図書館が情報リテラシー教育にかかわるために
 - ・教科として体系化して教科書をつくる
 - ・図書館員だけでは無理な部分を教員と協力
 - ・評価を実施する
 - ・評価をもとに改善して活かす
12. さいごに
慶應義塾大学メディアセンターの中期計画から、環境変化に対応した図書館サービスの実現の行動計画を策定中。図書館員として教育に携わっていくということについて、考えてみたい。